

## 令和7年 市政ふれあい懇談会要旨

■開催日時 令和7年11月23日(日)10時~12時

■開催場所 新木近隣センター

■参加者 市民14名

■出席者 星野市長、高見澤企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、  
大井環境経済部長、海老原建設部長、中場都市部長、担当課長等16名

■懇談要旨

### 質問・意見 1:水道料金の値上げについて

市民:水道料金について質問いたします。来年4月から31.8%の値上げが予算案で提案され、可決されました。千葉県水道が供給する佐倉市、市川市、船橋市、成田市、習志野市、鎌ヶ谷市、浦安市、印西市、松戸市の一部の自治体が18.6%に値上げすると伺っています。我孫子市の水源となっている北千葉広域水道企業団は、柏市は18.6%、流山市が8.3%、松戸市は17.7%と聞いています。我孫子市が一番高い31.8%の値上げとなっており、あまりにも高すぎるのではないかと思います。我孫子市だけが突出して高くなった原因を説明していただきたいと思います。

また、7ページに下水道料金の改正についての記載があり、「大規模地震への対応を実施するため、令和8年4月から使用料改定を予定しています」とあります。先ほど説明があったのですが、ちょっと聞き取れませんでした。この下水道の使用料改定については、9月議会の提案で、この下水道の値上げに対しての議論がなかったという記憶があるのですが、私の認識は間違っているでしょうか。この点についてお伺いしたいと思います。

### 回答 1:水道料金の値上げについて

建設部長:水道についてですが、水道局が本日来ていないため、はっきりしたお答えにはならないかもしれません。我孫子市の水道料金は、かなり以前に改定して以降、その時の料金を維持してきました。つまり、値上げをせずに維持してきたということがあります。今回は大幅な引き上げになってしまいましたが、それまでは料金を抑えていただいていたと認識しております。

また、下水道料金の改定については、9月議会の提案ではなく、今回の12月議会で条例改正を上程する予定です。

市長:水道料金についてですが、約15年前に水道料金を一度値下げしました。その値下げをする前と比較すると約20%の値上げになりますが、一度下げているため、下げた後と比較すると

30%ということになります。我孫子市の水道料金は、県内で下から数えて 5 番目以内で非常に安い状況でした。値上げをしても、まだ真ん中ほどまでっていないという金額です。値上げだけで近隣市と比較すると、近隣市の値上げ幅は 20%以内なのに我孫子市が 30%という大きな差が出るのは、そういう理由があります。ご存知のように、能登半島地震を受けて、我孫子市の水道の耐震化率は県の平均よりも非常に低い状況です。市民の中には「もし能登半島のような地震があった時に、水道の供給ができるのか」という不安を持つ方もいらっしゃいます。その時にお話しさせていただいたのは、現在の千葉県内で非常に安い水道料金のままでは、この耐震化を促進していく財源がないということです。値上げをしないと建築資材や人件費が上がっていく中で、耐震化工事がさらに遅れていくという状況になります。市民の皆さんの不安の声を反映させようとする、どうしても水道料金を値上げして、今までと少なくとも同じペースで水道管の耐震化工事を進めていく必要があると判断したとご理解ください。

## 質問・意見 2: 地方創生と職員の海外研修について

市民: 地方創生について質問いたします。今後の予算編成において、地方創生の分野で、市長、市職員の海外視察の予算を大幅に取って、知見を深めていただきたいというのが結論です。特にこの 1 年、AI の進化が目覚ましく、一番心配しているのは、一般的なホワイトカラーの業務の 70% は AI に置き換わると予想されていることです。そうなった時に、将来の我孫子市の業務だけでなく、子供たちが一生懸命勉強して卒業する時に、ホワイトカラーの仕事がないということになってしまうかもしれません。AI に聞いてみたところ、「より人間と人間をつなぐような仕事が人間には必要になってくる。それは私ども AI にはできません」と正直に答えました。そうすると、市の業務も定型的な業務から、もっとクリエイティブで創造的な仕事になっていくと思います。そういった中で、市内で考えているというよりは、世界に出ていただいて、ぜひ知見を深めて、効果的な教育と一緒にした政策を考えていただきたい。これは日本にいてもダメだと思います。

例えば、エストニア、シンガポール、アムステルダム、フィンランドなどが非常に進んでいて、職員の業務や教育制度を改革しているということを知っている、ぜひこのところに市内の予算を大幅に取っていただいて、市民にそれがどういう状況か報告していただきたい。また、若い職員の働き方が大きく変わる中で、AI にどういう姿勢で臨むかを学んでいただきたい。

もう一つお願いしたいのが、東南アジアの国から来ている留学生についてです。我孫子市の中で海外から来ている留学生は、ネパール、スリランカ、ベトナムなどですが、どういうわけで日本を選んでいるのか。特に我孫子市の場合、幸いなことに、この留学生の質が良いのです。真面目です。

そのため外国人についてもあまりトラブルが少ないのですが、なぜ日本に学生が来るのかという状況を調査していただき、我孫子市を選んでいる理由を紹介していただいて、できるだけ地域に悪影響を及ぼさないような方に来ていただくように、これはぜひ調査していただいて、市民にフィードバックしていただきたいとお願いします。

## 回答 2-1: 地方創生と職員の海外研修について

**企画総務部長:**研修の充実ということで、ご意見ありがとうございます。人事課の方で、色々と研修計画を立てているところではございますが、財政状況の話をさせていただきましたように、その中で、より効果的な研修をとということで取り組んでおります。ただ、現況は外に目を向けての視察研修というよりは、人材育成や接遇といったところに重点を置いているところでございます。厳しい財政状況でございますが、市職員にとって効果的である研修については、実施することも必要と思いますので、そこについては、しっかり財政当局と調整をして考えていきたいと思っております。

また、生成 AI についてですが、我孫子市では、他の自治体に遅れないよう AI を運用しております。ただ、なかなか全ての職員約 900 人が、使えているような状況ではないというのが現状でございます。この辺もやはり研修を含めて、しっかり活用できるようにこれから取り組んでいこうと考えております。これから市民の皆さんが 24 時間いつでも、どこまでお答えられるかわかりませんが、市への問い合わせにお答えができるような AI システムも今、確立を目指して準備を進めているところでございます。いただいたご意見をいろいろと検討させていただきながら、進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

**市長:**ありがとうございます。残念ながら、さすがに今の財政状況では海外までは無理だという状況になっていますが、その代わりとして、国内の先進的な事例を集めるというのは重要だと思います。

現在も、デジタル庁、内閣府、関東地方整備局、千葉県という形で、30 歳前後の若い職員をそちらに送りながら、様々な研修を積んでいるという状況になっています。若い職員には人事交流を図るチャンスになりますので、それを積極的に取り組んでいきたいと思っています。また、他の市町村から来ている職員に、実際どういう考え方で取り組んでいるのかを聞きながら、我孫子市でできるかどうかを検討するということは重要だと思っています。

我孫子市は面積が約 43 平方キロしかなく、その中の 3 分の 1 が農地です。これ以上の開発はほぼ無理ですし、市街化調整区域も市街化区域に変更するには県の同意が必要で、なかなか難しい状況です。その中で何ができるかというのは、一つの課題だろうなと思います。その中で、教育

というのは非常に大切なことで、子供たちがこれで遅れていて、就職する時に困るような状況だけは避けていきたいわけです。ご存じのように、一人一台タブレット端末を導入しながら、学校の先生たちにもっとこれを使うようにお話をさせていただいています。若い先生は積極的に使っているのですが、50代ぐらいの先生がなかなか使いこなせていないという状況ではあります。

また、学校の先生は県の職員ですので、我孫子市にある小中学校だけでなく、東葛地区の中を移動するという仕組みの中ですと、我孫子市を知らない先生が増えていっている中で、子供たちにこの地域の歴史や文化を教えられないなというのを実感しています。その辺りを、学校でしっかりと学べるようにするのが大事ではないかなと思います。

また、東南アジア関係については、これからも日本語学校にも協力を求めて、日本で暮らす時のマナーや生活習慣をしっかりと覚えていかないと、日本で生活しづらくなるという話をさせていただきながら進めております。改めて大学には、もう少し強く要望をしていく必要があると思っています。

我孫子市には、約4,600人の外国人がおり、その中の200人ほどは介護施設で働いている東南アジアなどの方々がいらっしゃいます。介護施設をいくら建設しても、そこで働く人がいなければ、施設は何の役にも立ちませんから、そこで働く日本人がいなくなっているという現実に対し、うまく対応する必要があると思っています。

特に市が東南アジアから誘致しているのではなく、それぞれの施設、事業者が働き手として真面目な人を誘致しているというのが現実としてあります。他の分野でも、もう日本人ではさすがに無理になってきていて、労働力として外国人材について本格的に検討する必要があると言われているのが、タクシーやバスの運転手です。これをやらなければ、タクシー、バスは昼間は走っても夜走れない、あるいは路線の廃止をせざるを得ないという状況が現実問題として出てきています。

また、建設業でも増えてきています。老朽化対策で工事を発注すると、足場を組んでいる作業員が外国語で会話をされているというのは、現実的によく起きています。ただ、最後の細かい建築現場では、やっぱり日本人がしっかりやっているということです。

その辺も含めながら、高齢化が進んでいって、いろんな分野で日本人の労働力がなくなってくることについては、外国人、特に介護職だったら、日本で働く介護をやらうとすると資格要件というものが出てきますから、そうするとご指摘のようにきちんとした人たちが来てくれています。そういった人をきちんと働き手として迎えていくという業種があるというのは、現実になってきていますので、ご指摘のような形をしっかりと見ながら、これからも対応していく必要があると思います。ありがとうございます。

**市民:** 色々な問題点でご苦労されているのはわかるのですが、教育の面から見ると、子供たちが将来 AI が普及してよりクリエイティブな仕事、より人間と人間をつなぐという、人間らしい仕事が非常に重要になってくると思います。それを市の職員たちの仕事で実現してあげることによって、子どもたちに「こういうことが仕事なんだ」「クリエイティブな仕事というのはこういうことなんだ」ということを、市の中のいろいろなお仕事の中で実例として示していかれるようなご配慮をしていただけたらいいなと思っています。その中で、クリエイティブな喜びを持って行う、ちょっとワクワクするような、海外視察などもすごくいいアイテムかと思っています。

具体的には厳しいのは分かりますけど、財政のことに関しても、もっと積極的に財政を出すんだということを、今の政権から日銀の方に伝えられてますので、その辺を踏まえた上でやっていただきたいのと、それからやっぱり介護などで、例えばネパールの皆さんのバックグラウンドを見ていただいて、その中に幸い日本に来ているのは上位のパーセントの人達です。それだけに非常にプライドが高く、社会の上位にならなければという人たちです。そういったことも、ぜひ若い我孫子市の職員の方に現地で会っていただいて、シンガポールはどうなのか、ベトナムはどうなのかというのをぜひ体験した上で、政策に反映していただけたらと思っておりますので、よろしくお願いします。

**市長:** ありがとうございます。今、我孫子市に住んでいる外国人の中で、一番多いのはネパール人です。その次が中国人となっています。先ほど言ったように、日本語学校の講師の先生がネパールの方を採用していくと、どうしてもネパールから留学生が集まってきて、そのまま日本語を 2 年ほど覚えたら、次に介護の専門学校で介護資格を取って、市内の介護施設で働くという現実的なお話を伺っています。天王台の日本語学校でも、ネパールやインドネシアなどが多いようです。学生さんたちも、やっぱり意識が高いです。日本で生活をして、お金を稼ぐだけでなく、知識を得て母国に帰って、それを活用したいという、レベルが高い意識を持っている人が多いと感じました。

日本語学校の講師には、日本で暮らす時の生活習慣やルール、マナーというのをしっかり覚えていけば、日本で生活しやすくなりますから、ぜひそれを含めて教えてほしいとお願いをしております。ご心配いただいて、ありがとうございます。これからいろんな形で、日本語学校や専門学校を通じながら、留学生との交流ができる場を作っていければと思っています。

### **質問・意見 3: まちづくり協議会の予算について**

**市民:** 新木まちづくり協議会の活動にご協力ありがとうございます。今、当まち協では年間予算の見直しをされています。また、福祉祭りのごみ袋の有料化の連絡も届いております。今日はこの件に

ついて要望いたしたいと思います。

令和7年4月1日現在で114名の会員がおり、実働部隊は60人から70人です。その時々に入れ替わりましたが、私たちの日々の当番を支えてくれて、声をかけると快く引き受けてくれる、そんないい皆さんです。

新木まちづくり協議会は、年間を通して、近隣センターの会議、住民との交流、まちづくり会報の発行などを行い、イベントを6種類の行事で年間18回開催しています。そのための準備と運営、片付けを、年間にすると相当数になり、当然みんな無償のボランティアです。

新木まちづくり協議会の会則には目的として、地域住民の相互の親睦と交流を深め、地域環境に関する協議をし、自主的なコミュニティ活動を通し、住民参加の街づくりを進める事を目的としています。今の新木まちづくり協議会は、この目的に沿って十分とは言えないかもしれませんが、活動しています。このような努力をしている中で、市の予算を見ていると、予算は運営費と事業費に分かれておりますが、私たちの行事に使える事業費を見てみると、私の見る限りでは、平成25年には108万円、そして平成26年から令和元年は111万円、令和2年は111万3,000円、令和3年は121万円とプラスになりましたが、この年から地域まちづくり協議会が開かれるようになり、10万円が加算されています。ただし、この10万円は事業費では使えない10万円です。

令和7年度の今年までの12年間、事業費は実質111万円のままです。その間に、突然値上がりして、何倍かの費用が増えるわけです。買いたい物の価格が上がっているのに、私たちは変わらない努力をして活動しています。日頃、事業を通じて地域住民とのコミュニケーションを取る中で、イベントは住民の楽しみになっています。私たちのモチベーションを保つためにも、この実情を把握していただき、事業費の増額を対応していただければと思います。よろしくお願いします。

### 回答3:まちづくり協議会の予算について

**市民生活部長:**日頃からまちづくり協議会の活動についてご協力いただきましてありがとうございます。予算の関係につきましては、市長からもご説明があった通り、なかなか財政が厳しい状況の中で、今までやってきたもの全てを認めるということが、なかなか難しくなっているのが現状としてあります。その中で、削減ありきではないですが、見直せるところについては、何かご協力をいただけないかというところで、市の担当もご相談の方はさせていただいた状況かと思っております。全てが削減ありきということではありませんし、その必要な予算というのは、今後も要求していただいて、まちづくり協議会の活動については、引き続きご協力の方をよろしくお願ひしたいと考えております。

**市長:**いつもご協力ありがとうございます。最初に説明したように、ここへ来て、税収は少し上がっ

ていますが、ただ支出が増えています。これは先ほど言ったように、資材と人件費が上がっていて、老朽化した公共施設が増えていくということで、2 年ほど前に、久寺家中学校の校舎の外壁が剥落しました。それを踏まえて、各小中学校の外壁点検をしたところ、多くの学校が対象となりました。それも当然やらざるを得なかったということです。最近では、子供が生まれる数が 600 人ちょっとという状況ですが、せっかく生まれた子供たちを危険な目に遭わせるわけにいかないなので、これを最優先で取り組んでいます。

それと、湖北小学校の体育館が火災によって、卒業式ができないということで、今の 5 年生が卒業式を迎えるまでには間に合わせることを目標にしています。通常の議会で行っていきと、卒業式に間に合いませんので、臨時議会を 11 月に開いて、1 ヶ月でも 2 ヶ月でも工事を早めながら、再来年 2 月までに工事を終わらせ、卒業式に間に合うような対応を取っていくところです。このような状況になってくると、申し訳ないのですが、今まで通りにお金が出しづらくなったというのはご理解いただきたいと思います。その中で、「これだけはアップしないでほしい。」「これはカットしてもいい。」というところを、それぞれのまちづくり協議会と話し合いをさせていただければと思います。

また、まちづくり協議会の中心の話として、ぜひ各イベントや自主事業というのにも検討してほしいと思います。お金を稼いで構わないので、きちんと収入を得る方法を考えてもらって、事業を行っていただけないかと思っています。「あれも、これも無料というわけには、さすがに行きません。」という状況になってきておりますので、材料費ぐらいは確保しようか、少し自主事業の感覚を持っていただいて、いろいろな事業を行いながら、その中で収益を得る方法を考えてほしいという話です。

ごみ袋につきましても、例えば平常時には、年に 1 回は無料にしようか、または、いろんな減免について検討を進めていますので、まちづくり協議会としても「ぜひこの事業を行いたい」というのがあれば、一緒に担当者へ要望していただければと思います。我々としても、まちづくり協議会の皆様にほとんどボランティアをしていただいて、それに対するお礼としての気持ちは持っていますので、ぜひ一つずつチェックをさせていただいて、相談をさせていただければと思います。これからもご協力よろしくお願ひしたいと思います。

#### **質問・意見 4: 予算の収入増加策、循環バスについて**

**市民:**私も何度か参加させていただいています。本日の資料は比較的に見やすい資料になっていると思いました。ありがとうございます。予算の件もよくわかりました。私の方は 2 つほどお伺いと、それからリクエストという形でお話を聞いていただきたいと思います。予算の関係で示されているのはどちらかというと、その支出の削減や支出のコントロールというようなところに注力があると思

ます。それはそれで考え方なのかと思うのですが、ただそれもかなり限界があると思います。長い目で見た時に、1年、2年で結果が出ないとは思いますが、市として収入を増やすための政策、例えば税金を上げたとか、手数料を上げたとか、そういうような短絡な話ではなく、長年で見ると、どういう施策を考えていらっしゃるのか、計画があるのか、そういったものがあれば、お話を聞かせていただきたいというのが1点目です。

2点目は、毎回ちょっとお話をさせていただいているのですが、あびバスのお話です。循環バスにつきましては、継続という方向性であるというのは、この資料等でわかるのですが、コストの70%ぐらいを平均に負担しているような状態でもあって、その実効性をしっかりと見極めていかなくてはならないと思うのです。実証運行になってから、1年以上経っているかと思うのですが、その間に行われた検証の内容だとか、そういったものをお聞かせいただけたらと思います。噂では、ダイヤを見直すとか、昼間の便を見直すとか、そのような話をちょっと聞いているのですが、さほど抜本的な対策ではないのでは、と思っています。リクエストとしましては、やはり現役世代はなかなか利用出来ない時間帯になってます。朝は遅いですし、夜は早い。これでは全く使えない。ただ、交通弱者と言われているお年寄りだとか体の不自由な人たちが使える公共交通であれば、まだいいのですが、電車との接続もあんまり良くないという感じがします。

前にもお話をさせていただきましたが、朝の出勤で駅に行く場合、これは実証運行バスがありますが、大体7時18分から20分ぐらいに到着して、成田線は7時17分に出発したばかりになります。ですから、電車が出発した1、2分後に着いているということです。その後、次の電車は何分かというと7時37分ということで、20分近く待つという形です。ホームや駅で待つというのは、夏は暑いですし、冬は寒いです。なので、待ち時間であるとか、またバスですから当然交通事情によって遅れるとかいうことも考えなくてはいけません。もう少しその辺の接続性を考えてもいいのではと思っています。特にJRのダイヤを見ていただくとお分かりの通り、6時52分から7時17分までのおよそ30分弱の間に常磐線が3本走っています。日中は1時間に2本ぐらいしか走っていないのに、その時間帯は30分弱の間に3本も走っている。これはやはりそれだけ需要があるからということだと思います。ですから、今走っているバスは、この常磐線としては比較的本数が多い時間帯を避けて走っている、その中でも人がそれなりに乗っているというのは逆に私にとっては奇跡かなと思っています。

また、天王台地区についても、時間がかかり過ぎている。ルートが非常に悪すぎる。もちろんそのルートを迂回することによって乗客が増えるとか、NECだとか、あとは川村学園の学生が乗るということで、運賃収入を多少確保できるというところは理解できますが、一方で、布佐地区や新木地

区の住民にしてみれば、「バスで 30 分近くかけて天王台まで行くのであれば、成田線を 30 分待って乗った方がいいのではないか。」という意見もあります。なので、そこは、同じ本数であっても、工夫次第で少し使いやすくなるかと思えます。この辺のご検討をお願いできないかと思えます。

#### 回答 4-1: 予算の収入増加策について

**財政部長:** 市の財政状況もご理解いただきましてありがとうございます。そして、収入についてもいろいろ考えていただきありがとうございます。市としましても、おっしゃる通り、これまではどちらかというと、例えば参加費については決まった法律に則って歳入を確保していくですとか、税の徴収率のアップといったところでの確保が中心だったと思えます。ここ十数年、ふるさと納税も始まりまして、いろんな手法で自治体の努力によって歳入を確保できるということも増えてきましたので、それについては、積極的に取り組みを進めて、歳入の増につなげたいと考えております。

現状において一番は、ふるさと納税かと思えます。これは確かにある程度市の努力によって、いろんな手法も考えられますし、歳入の増につながるものだと考えています。ただ、我孫子市もこれといった特産品がないとか、工場立地が少ないとか、いろんな制約の中で工夫しているところです。さらに今までは財政課の方でふるさと納税を取り扱っておりましたけれども、財政課の力だけではなかなか広範囲にわたっての交渉も難しいということで、今年度からは企画政策課の方に業務を移しまして、さらなる戦略を立てて、増収につながるように取り組んでいるところです。

それ以外では、クラウドファンディングですとかネーミングライツもございます。市の方でこれから新しく建つ建物に取り入れるですとか、様々な形で歳入を増やせるかということは、今後も工夫していきたいと思っておりますので、皆様もアイデアがありましたら、ぜひお寄せいただきまして、歳入の増に役立てていきたいと思えます。よろしく願いいたします。

**市長:** 我孫子は、作物そのものが育つ風土で、どちらかというと何でも作れるというか、その時代に応じて一番高く売れるものに取り組んできていました。昔はいろいろなものがありました。畑がどこにでもあったのが住宅地が変わっていくという中で、いろんなところで時代に沿って変わっていると思えます。

その中で、例えば精密な機械を扱う工場ではなくて、商業施設ということであれば、ある程度建てられるという、いわゆる工場の誘致よりも商業施設の誘致の方が税収としても大きく違ってくるという話をしています。

NEC は市内で一番大きい企業ですけれども、そこは固定資産税だけであって、法人税はほとん

ど入りません。こういった状況ではなかなか厳しいと思っています。

ふるさと納税につきましては、大部分の市が赤字です。我孫子市はまだ 1 億円の収入にはいってません。もらえる金額というのは、いわゆる我孫子市にふるさと納税をしてくれる方は 1 億円未満ですが、我孫子市からは 5 億円以上が出ています。ただ、国からの補填もあって、実質は 1 億 5,000 万円の減収になっています。もっと大きな話ですと何十億円、あるいは 100 億円を超える場所もあるぐらいの状況の中で、他の町の特産を買ってしまえば、我孫子市には税金が入らなくなってきます。それでも先ほどの学校や道路、下水道などいろんなものを維持していかなければなりません。人件費は相変わらず高いという状況の中で、毎年費用がかかって、これが先ほど言った 7 億円の財源がないと新規の事業のお金が出ないという状況です。

新規事業のお金を生み出すためには、削減できるところを削減して、いただくところはいただく、また受益者負担ということで、市民に負担していただく。あとは企業誘致などを行い、税収を増やすという方法もありますので、この対策もしっかり対応していきながら、考えていくということです。

一例としては、千葉県の北千葉道路ができ、新しい道路ができて、インターができると、その周辺は農地が解除しやすくなって、どんどんと物流施設ができたということがありました。農地の解除はそういったタイミングで行うと非常にスムーズにいきます。ただ、国との交渉には、多くの時間がかかるということです。

#### 回答 4-2:循環バスについて

市長:それと先ほどお話しになった実証運行バスの話ですが、例えば我孫子駅から天王台駅に行くバスが欲しいという声はありますけれど、現実的には先ほどおっしゃっていたように、我孫子駅だったら次の駅なので電車で行った方がという考えもあります。ただ、湖北地区に行くのであれば、その辺は必要があるということで、実際に湖北地区に住んでいる人で NEC に通っている人もまだいるものですから、その人たちからすると、湖北地区から NEC 周辺に行く必要はあると認識しています。

ただ、NEC も人が減っていますし、いつまでいるかということも考える必要があると思っています。それだったら、あびバスのように、湖北駅で止めてしまって、この間をもっと短縮した方がいいのではないかという話もあるのかと思います。

それと湖北台地区もそうですけれども、その南から湖北南地区、湖北台地区の住宅地をどう結ぶか。それをなくしてしまうと、湖北台地区に住んでいる人たちは余計交通不便な地域になってしまいます。そうなるとう湖北台地区の固定資産税の評価額が下がってきますから、ここはあびバスとし

て運行していく必要があるというふうになっています。

その中で、今運行しているのは阪東バスです。実際に運行出来るのは阪東バスしかありませんから、その競争の中でご理解をいただけるようにしていく必要があつて、例えば3年とか5年とか運行する会社が変わってしまうと、逆にお客さんを取られてしまうというのも不安の種になってます。それも踏まえて、実施事業者を決める中でご理解いただくような説得をしているという状況です。

やはり利用してもらうためには、成田線との接続が悪くては乗ってくれないという現実があります。

それと、今までお年寄りのいわゆる路線バスとは違って、高齢者のデイサービスというのがありますが、お年寄りに向けた、例えば病院や買い物に行く足の確保のバスという考え方があつてますから、通勤通学のためのいわゆる路線バスとは違ってきています。とはいっても、両方のその需要を持ってくれないとなかなか収入確保できないという現状もあります。

今、1台のバスの運転手さんは一人では運行できません。きちんと休憩時間を取らないといけませんので、単純にもうちょっと朝早くから夜遅くまで運行しようとする、倍のコストが発生してしまうこととなります。その状況の中で、これからも運行していこうとするにあたっては、なかなか増やせられません。先ほど言ったように成田線1本との接続の話で言えば、これからも検討し続ける必要があるというふうに思います。いつもあびバスについてのご意見はたくさん頂戴しています。これからあびバスについてのご意見を頂戴して、特に新木の方々からの意見の方がメインになっていますので、先ほど言ったダイヤの見直しを含めて、ご意見を頂戴しながら、対応を検討させていただきます。よろしく願います。

#### **質問・意見 5:公園の樹木管理について**

**市民:**住宅の中に公園がありますが、100坪、200坪ぐらいの公園です。毎年、伐採とか剪定をしているようですが、ほとんど高齢者ばかりになって、利用者がおりません。それに枯葉もすぐ飛んできます。今も見てきて、すごい落ち葉の状態になっていますし、毎年業者に頼んで木を切るのにお金がかかります。それなら誰も利用しない公園であれば、木を全部伐採して、廃止にしてはどうでしょうか。一度お金がかかっても全部木を切って更地にする。そうするともう少し利用価値があるのではないかと思うのです。その辺は、今後の計画、公園運営について、予算をかけないという方策をより広げてほしいです。以上です。

#### **回答 5:公園の樹木管理について**

**都市部長:**ご意見ありがとうございます。なかなか緑を保全して守る立場からすると、全部伐採して、

更地にするというのは、公園ではなくなってしまうので、難しいかとは思いますが、公園自体が今おっしゃっている通り、樹木の伐採と、この異常気象のせいで樹木の管理に対して、莫大な予算がかかっております。公園緑地課の営繕の職員も公園を巡回しながら、色々に対応しています。業者に委託する部門と公園緑地課でやっている部門の 2 部門であるのですが、なかなか今、市内 225 の公園があるのですけれど、手がまわらないことと、もしくは、予算が少し足りないというような状況がここ数年起こっています。

いただいたご意見ですが、全てを伐採して更地にするというと、公園の管理自体は非常に楽になるのですが、公園自体は樹木以外にも、火災の延焼をとめるなど、そういった防災の役目も果たしていますので、その公園の今後のあり方について、もう一度現場を見させていただいて、検討していきたいというふうに思います。今日、公園緑地課が来てますので、この後に、場所を教えてくださいたいと思います。

#### **質問・意見 6:太陽光発電によるカーボンニュートラルについて**

**市民:**市では、カーボンニュートラルを推進していると思います。ただ、財政が非常に厳しい状況だということから考えると、そういう再生可能エネルギーの導入を進めるというのは、かなり悩ましい問題でありますし、難しいのかなと思うのです。けれども、確か今年の春、水道局の上に太陽光発電機を設置したと思いますが、しかも自己資金なしで建て付けられた新しい方式で、非常に成功しているというふうに聞いてます。そういう方式というのは、我孫子市にとっても有益ではないでしょうか。そして去年でしたか、体育館の屋根を全部きれいに改修し直しましたが、そろそろ今使っているような重い太陽光発電のパネルではなくて、ペロブスカイトとかそういう膜状の薄いようなパネルがいよいよ量産が始まるというので、来年から屋根につけたり、壁につけたりというふうな話も聞こえてきます。ぜひ、体育館の屋根は非常に広いし、全体が南向きなので、体育館で使う電気以上の発電ができるのではないかと思います。我孫子市の他の施設でも全部使えるようにオフサイトPPAというシステムを使って、なおかつ資金なしで運営できるような体制ができたらいと思います。ぜひ、資金がない自治体としては、そういう他の予算を活用して、カーボンニュートラルの達成ができるような動きをしたらどうかという提案です。よろしくをお願いします。

#### **回答 6:太陽光発電によるカーボンニュートラルについて**

**環境経済部長:**ご提案ありがとうございます。カーボンニュートラルについてということで、我孫子

市でもいろいろな計画で進めているのですけれども、ただいまご提言をいただきました体育館の屋根にペロブスカイトとのことですが、実際に市が太陽光パネルを載せるというよりも、民間の業者が屋根を借りて、そこで太陽光を発電して、他のところで使うという方法などがあると思います。

そういったことを今後も進めていって、環境経済部だけでは続けられないようなところがありますので、体育館ですと教育委員会などと相談をしながら行っていこうと思いますが、ペロブスカイトですと薄くて、形状が良いということですが、現状の太陽光パネルはそれなりの重さがあって、そこに載せられるような屋根かどうかということもありますので、そういったものは業者の方と相談しながら、ぜひ進めていきたいというふうに考えます。

### **質問・意見 7:職員の人件費削減について**

**市民:**資料の 1 ページですけれど、人件費について質問したいと思います。地域手当についてですが、我孫子市は地域割合が 10%、鎌ヶ谷市は 7.5%、流山市が 7.3%、野田市と白井市は 6% なんです。我孫子市は地域であれば 9.5%で柏市より高い。柏市でさえ 6%で 3.5%下げられています。我孫子市の財政は厳しいと思います。企業がありません。ほぼまあ固定資産税と住民税であると思いますが、市の歳入のその財源が市民税とほぼ同額なんです。我孫子市民の皆さん、その住民税・市民税を我孫子市の職員のために一生懸命働いているのと同じなんです。だからいつまでもここで予算が足りない、そういう回答を繰り返しています。

まず、市長を始め、副市長と議員さん、職員の皆さん、賃金を削減していただきたいと思います。削減改革、それをやらない限り、このままだと財政はうまくいかないと思います。財政は本当に逼迫している状態ですから。もう一つ、先ほど下水道料金が来年 4 月に 10%に値上げされます。その値上げの中に市債の償還金利も含まれての料金になるとのことで、市長が先ほど 12 月の議会でそれを提出すると言ってます。議会任せです。もう一つ、市民との懇談会などは予算との関係で行われると思いますが、その際に忘年会や新年会などに参加した時に、私個人としては、市長の飲み代ぐらいの金額は自分の給料から払っていただきたいと思うところです。

やはり、私としては財政が厳しい以上、それは自粛するべきであると思うところです。その見本として、改善していくこと、その中で自覚してもらいたいと思うのですが、その外にも人件費が一番大きいと思うので、これを削減したらいいと思います。

### **回答 7:職員の人件費削減について**

**企画総務部長:**地域手当のお話をいただきましたけれども、今おっしゃっていただいた通りかと思

います。地域手当ですけれども、こちらはその地域の物価がどうであるか、民間の給与水準との比較であったりなど、いろいろとその地域の状況を踏まえて、国が指定しています。我孫子市は現在12%の地域になっておりますが、そこをカットして、9.5%に削減をしている状況でございます。

柏市は、次年度また少し上げるというようなことも聞いております。そういった中で、我孫子市は、まず国から指定された数値まで支給していないということをご理解いただきたいと思っております。国が示す地域分のパーセンテージから削減をして、支給をしているというような状況でございます。

一方で、東京23区の地域手当は20%になっておりますので、そうしますと今、各市役所を目指す職員、区役所を目指す職員を採用する際に、公務員志願者が減少している中、採用も非常に厳しく手当の格差も人材の確保の競争につながっているような状況でございます。

やはり我孫子市でもいい人材を確保というところでは、人件費をカットしますと、やはりいい人材が、採用できないということになり、どうしても東京に人が流れてしまうというような状況もございます。このようなことから、今の地域手当は近隣と比較しますと高いように見えますけれども、財政状況も踏まえて削減をしているというところは、ご理解をいただきたいと思っております。

それから、人件費の削減で何か工夫をしていないのかというところですが、まず、ここにつきましては、特別職である、市長、副市長、教育長、水道局長は毎月2%カット、給与削減を続けております。それから職員も、当時一般の職員から私ども部長級の職員まで、ずっと1%ないし、2%カットを続けてきましたが、昨今の採用難というところもありますので、近年では管理職、いわゆる部長、課長、課長補佐職について削減を続けてまいりました。昨年、課長補佐の給与カットを取りやめまして、現時点では部長、課長は毎月1%カットを継続している状況でございます。市として管理職の職員については、給与カットを続けているというところをご理解いただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

**市長:**地域手当については、私が市長に就任した最初の年に前市長からいわゆる市長職引き継ぎをしています。その時から一律5%削減をずっと続けてきました。職員については、先ほどの部長の説明で少しずつ状況によって緩和してきましたが、そうしないと職員が我孫子市役所に集まりません。また、そのような状況ですと市の業務が滞るということになってしまいます。

今は国全体が行っていることですが、若い職員の給料は何とか高くして、年配の給料はなるべく抑えている形の人事システムがずっと続いてきています。私自身も市長に就任してから給料カットを続けてきました。先ほどの市長交際費については、同じ団体では1回目は交際費で出して、2回目以降は自費という形でずっと続けています。ですから、交際費以上に私のポケットマネーからお

金を出しております。ただ、今後私の次に市長になる人が、同じようにできるかどうかという心配はあります。

また、新規職員を採用しようとする時に、他市と給料の差があっては、みんな近隣市に行ってしまうから、我孫子市にくる人が残り物にならないようにしていきたいと思っています。だからこそ先ほど言ったように内閣府や県、デジタル庁に市職員を派遣して、また次も送ってくださいと相手方が言ってくれる職員がいるということをご理解いただきたいと思います。

だからこそ今、我孫子市では子ども医療券の県外適用が出来る初めてのまちとなりました。

これうちの職員が頑張ったからこそできたことであって、全国初になるぐらいの仕事をした職員がいるのだという事実をぜひご理解いただきたいです。

借金に対する話ですが、確かに借金の返済というのは、無駄だと思えば無駄かもしれませんが、15年前の東日本大震災の時ですら、まだ我孫子市の学校の耐震化は終わる予定はありませんでした。校舎の方は前倒しをし、体育館は平成 27 年までに全部耐震化工事を終わらせました。それは借金をして終わらせました。

あれだけの震災を受けて、子供たちの命を救うためには、我々大人が借金をしてでも、子供の命を守ることが先だろうと思ったからです。それをした上で、利息を含めて返していくしかないというふうに思っていますので、先ほど言ったように久寺家中学校の剥落事故などを受けて、緊急点検をしたところ、いくつかの学校で危ない場所が見つければ、ご指摘のように利息が含まれてはいても、貯金が溜まってから事業をするのか、それとも借金をしてでも行うかという点では、子供の命を守るという考えから、保護者として、親としては借金をしてでも、絶対に子供の命が先だというふうに思っています。

例えば、新木駅の駅舎の建て替えにも随分と議論はありましたけれど、そこには借金も入ってません。だから、貯金が溜まってから行うか、先に駅舎を建て替えの方が良かったとか、議論はあるとは思いますが、駅舎を建て替えたら、新木駅の目の前にあった既存施設用地にウエルシアさんなどが出店してくれました。市から要望を出し続けても、なかなか来てくれなかった方たちが来てくれるようになったという状況を踏まえると、やっぱり借金をしてでも資本投資というのは行っていかなければならないと思っています。

そこについてはご理解いただきながら、あとは給料についていろんな形で対応していきます。あとは市議会議員についても、これから 12 月議会初日に採決の予定と聞いてますけれども、議員定数の削減について、議会としても今検討しているとお伺いをしています。これについてご興味がありましたら、議会運営委員会の中で、検討していただいていると思います。

先ほどの我々特別職についても、この給料のカットについては、これからも継続するつもりでいます。交際費についてもこれ以上増やす必要はありませんし、まだ先ほど言った自費の方が多くなる現状も、これからも続けていくつもりでいます。

#### 質問・意見 8:職員の人件費削減について(その2)

市民:今の人件費の話ですが、給与体系というのが、2年ごとに変わる企業、それから自然に伸びる企業、業績を上げることによって給料が上がる発想になっていかないと、どうしても公務員の発想が続いていきます。やっぱり、これからの働き方の改革の中で、若い人のクリエイティブな仕事を求められる。その中で、例えば市の財政を改善する財源を確保してくれる職員がいれば、その職員の給料をもっと上げたっていいのではないかと思うのです。そういった仕事が見本になって、若い中学生や高校生の将来に、AIが定型的な仕事をやっていく社会の中で、クリエイティブな仕事は何かということをお子供たちが考え、育っていくのではないかと考えております。我孫子市は非常に優れた科学者、国際級の物理学者や筑波大学を定年退職し、非常に環境に詳しい方だとか、そういう方をどこに配置するか、今はボランティアで小学生に教えていたりするのですけれど、そうではなくてもっと戦略的に大人の教育に活用したり、それから先ほどの太陽光パネルとか難しい問題に関しても、もっと積極的に活用し、それが子供たちの見本になって、教育で我孫子市は立て直すという一つの戦略ができないかと思っています。コミュニティスクールというのは、大人も含めた地域での教育、それを考えていきながら、大きなビジョンに立っていくべきだと思います。いすみ市では、有機農業に着目し、市長が全面的に後押しして、それを盛り上げました。このいすみ市がその農業や子供の教育や里山とか、水田を使う子供の教育によく取り組んでいるという形で、それを市長がいろんなところに売り込みをしています。ですから、市長が交際費を持つことは、民間企業も当然持っていることから、躊躇なく使うべきだと思います。

これから、こういった民間との関係も、市の増収をよくしていくという発想で、ぜひお願いしまして、カットという方向ではなくて、より良いアイデアを出して、それで市が豊かになって、それを持って還元するっていう立場で、積極財政を押し進めて、それに乗っていただきたいなと思います。

#### 回答8:職員の人件費削減について(その2)

市長:ありがとうございます。私自身、就任した段階で、給与は下がると確信しておりました。今の状況だったら構わないと思っていたのですが、ただ、頑張っている職員は、他の職員と違う昇給、いわゆる誰でも一律に上がるというのではないという形は、これからも行っていきたいと思っています。